

第1回地域委員会における委員からの主な意見と対応状況

委員会	該当政策	委員意見	対応状況
<b>&lt;全般、総論などに関するご意見&gt;</b>			
1	富山① 全般	政策の実効性を高めるために、今後、優先度とコストの議論が必要。交通基盤の整備がある程度進んでいくと考えれば、今後の重点施策は観光に関する招致施設の整備を第一に優先し、次に製造業、農林業などの産業の整備を進めることではないか。また、防災については不断の課題である。	計画骨子案「総論編」の「第5章 県政運営の基本姿勢」の「4 現場重視で効率的な県政」において、厳しい財政状況の中、県民ニーズに即した行政サービスを提供するため、県民生活の「現場」の声を予算編成等に活かし、施策の選択と集中などに取り組み、効率的で実効性のある行政運営を進める旨を記載している。 また、本県の発展や県民の幸せのため重要な政策課題であって、優先かつ横断的に取り組むべきものとして5つの「重点戦略」を設定し、政策のメリハリを持たせて計画を推進していくこととしている。
2	富山① 全般	広報戦略を総合計画に明示的に織り込むべき。北陸三県で1番というだけでは足りず、例えば北海道、東北地方、中国地方の県と比べて、富山が1番であることをPRしていく必要がある。日本橋とやま館が成功した理由を分析し、より幅広く展開してはどうか。	総合計画に直接盛り込むのは難しいが、広報戦略は重要と考えており、例えば、活力23の【主な施策】の4として「戦略的なプロモーション」を掲げるなど、個々の政策において盛り込んでいる。また、各政策に掲げる具体の施策を推進するに当たり、効果的と考えられるPR・広報手法を採用することとしているところであるが、委員ご指摘の趣旨も踏まえ、より効果的なPR・広報に努めてまいりたい。
3	富山① 総論	キャッチフレーズは重要。基本理念・目標は今後検討することになっているが、わかりやすい標語にすることが大事である。	基本理念(目標)の内容については、現在検討を行っているところであるが、委員ご指摘の趣旨を踏まえ、「とやま新時代」にふさわしい、県民に分かりやすく、意識と行動をみんなで共有できる基本的なメッセージとなるよう努めてまいりたい。
4	富山① 総論	「総論編」の41ページに重点戦略が記載されているが、もう少し具体的に記載した方が、県民の頭に入りやすいのではないかと。	重点戦略の内容については、現在検討を行っているところであるが、委員ご指摘の趣旨を踏まえ、県民に分かりやすい内容となるよう努めてまいりたい。
5	富山① 総論	骨子案総論編の51ページ(2)(市町村との連携等)に関して、本県はコンパクトな県であるので、公平と効率を考えていただいて、適切に弱いところに手を打ってもらいたい。(行政の立場として、弱い町村に力を注ぐこと。)	計画骨子案「総論編」の「第6章 計画の実効性の確保と推進」の「2 (2)市町村との連携等」において、総合計画の推進に当たっては、①県民生活に最大限の成果をもたらす、②各地域の特色、魅力を発揮させつつ県全体としてバランスのとれた発展を図る、という視点に立って県と市町村が連携・協力しながら取り組む旨を記載している。
6	富山① 地域別	常願寺川扇状地で安心・安全な生活を享受できている陰には、営々と工事が続けられている砂防事業がある。地域の特性と課題に「治山、治水、海岸保全などの防災対策」と記載されているが、砂防事業が現在の安心感を与えてくれているので、もう少し砂防の重要性を加筆していただきたい。	「地域別の特性と取組み」の「<地域の特性と課題>」において、「治山、治水、海岸保全などの防災対策」に加えて「砂防」を追記している。(→「治山、治水、砂防、海岸保全などの防災対策」)
7	富山① 全般	選択と集中、優先度とコストの重視が大変重要。税收減で交付税も大変厳しくなっている中、総合計画といえども、しっかりと重点化していくことが大変大事。	計画骨子案「総論編」の「第5章 県政運営の基本姿勢」の「4 現場重視で効率的な県政」において、厳しい財政状況の中、県民ニーズに即した行政サービスを提供するため、県民生活の「現場」の声を予算編成等に活かし、施策の選択と集中などに取り組み、効率的で実効性のある行政運営を進める旨を記載している。 また、本県の発展や県民の幸せのため重要な政策課題であって、優先かつ横断的に取り組むべきものとして5つの「重点戦略」を設定し、政策のメリハリを持たせて計画を推進していくこととしている。

	委員会	該当政策	委員意見	対応状況
8	富山①	総論	決して閉鎖的ではない人柄、進取の気性をぜひ富山全体の強みとして打ち出すべき。また、災害が少なく、出火率が全国一少ない(26年連続)こと、犯罪認知件数が少なく、生活保護率が全国一少ないこと、そして街が美しいという特徴や地縁性に優れているといった富山全体の強みをもう少し書き加えていただきたい。	ご指摘のあった「強み」については、計画骨子案「総論編」において、「富山県全体の強み」として記載している。
9	富山①	地域別	地域別の取組みの方向の「活力とやま」の部分で、主要な農産物の例として、富山市としてはぜひ「エゴマ」をここに加えていただければありがたい。	「地域別の特性と取組み」の<取組みの方向>活力とやまの「特色ある農林水産業の振興」における農産物の主要例に「エゴマ」を記載している。

### <活力分野に関するご意見>

#### 【展開目標1】グローバル競争を勝ち抜く力強い産業の育成と雇用の確保

10	富山①	活力5	従来の企業や商店がなくなっている。大山や大沢野の方に工場誘致をしていただいて、そこに雇用を生み、そして夫婦で人口増になるようにしてもらいたい。	活力5の【主な施策】の「2 積極的な企業誘致活動の展開」において、「優れた技術を持った成長性の高い企業やものづくりの基盤の裾野が広がる企業の誘致の推進」、「若者や女性の雇用につながる本社機能・研究開発拠点等の誘致の推進」を記載している。
11	富山①	活力8	老舗が町から消えていく状況をどうしても止められないという現実があるが、老舗が活躍してくれるような町に戻す取組みを頑張っていかなければならない。そのためには、地元の産業、企業と観光を結び付け、町に人を呼び込み、多少でも時間を取ってもらえるようなまちづくりに挑戦することが必要。	活力8の【主な施策】の「2 魅力ある商店街づくりと人材の育成支援」において、「後継者問題等の課題解決に向けた商店街の新たな取り組みに対する支援」を記載している。また、各商店街での継続的な取組みについては、既存の商店街向け制度で支援してまいりたい。
12	富山①	活力6	後継者不足、高齢化といった構造的なものも含めて、商工会の脱会者が非常に多くなっていることから、必要な支援をお願いしたい。	活力6の【主な施策】の「1 中小・小規模企業への支援体制の充実・強化」において、商工団体等の組織基盤の強化を記載している。既存の小規模事業指導費補助金により、引き続き商工団体の事業承継等の取組みを支援していく。また、「4 人材の育成と確保への支援」において、「後継者人材バンク」を活用したマッチング支援や事業承継支援ネットワークの活用を記載し、後継者対策に取り組んでいくこととしている。
13	富山①	活力2	「富山県はどうして薬都と言われているのか」、「今どうして売薬さんがいないのか」ということを教えていくべきである。売薬文化は富山の大事な基礎になっていた文化だと思うので、売薬の文化を富山県として大きく取り上げてほしい。	委員ご指摘のとおり、配置薬業(売薬文化)は富山県の医薬品産業のルーツであり、その魅力を国内外に広くPRするため、配置薬業に係る関連文化財群の「日本遺産」への認定申請の準備を進めている。
14	富山①	活力10	まず一番には労働力の確保をお願いしたい。今後ますます人口が減って、働き世代の人が減ってくると、労働力の取り合いになってくるのではないかと。	活力10の【主な施策】の「1 UIJターンの推進等による人材還流」において、県外学生のUIJターン就職について記載している。また、「3 全ての人が活躍できる雇用環境の整備」において、高齢者や障害者、外国人労働者などの潜在労働力の活用について記載している。
15	富山①	活力8	商店街の活性化の「活性化」の意味は商業ベースの活性化によく捉えられがちであるが、まさに中心商店街もコミュニティがきちんと行われる場所であるというふうに捉え方を見直していただきたい。	活力8の【取組みの基本方向】において、「地域の新たな課題の解決に取り組むコミュニティビジネスを振興」する旨を記載するとともに、【主な施策】の「2 魅力ある商店街づくりと人材の育成支援」において、「商店街の新たな取り組みに対する支援」を記載している。

#### 【展開目標2】生産性・付加価値の高い農林水産業の振興

16	富山①	活力15	富山湾の漁獲量がかなり減っている。今後10年においても、海水温の変化や捕れる魚種の変化は避けて通れないと思うので、かなり長期的な視点でどう捉えていくのが大きな課題の一つではないかと。	活力15の【取組みの基本方向】において、水産資源を持続的に活用する資源管理型漁業の推進を記載するとともに、【主な施策】の「1 持続可能な漁業の推進」において、種苗生産技術の開発やつくり育てる漁業の推進、漁場環境の保全等を記載している。
----	-----	------	---	---

	委員会	該当政策	委員意見	対応状況
17	富山①	活力11 活力12 活力13 活力14	グローバル化が進めば進むほど農林業が疲弊し、それによって商業、中心市街地もみんな駄目になっている。今後、県を挙げて農林業をどうしていくかを真剣に考えてほしい。(農林業をきちんと支えて自立させること。)	活力11において「とやま農業未来カレッジ」等を中心とした若い担い手の育成・確保について記載するとともに、活力12では低コスト化・省力化に向けた農業生産基盤の確保やスマート農業の推進、活力13では「食のとやまブランド」の確立について記載している。また、活力14では、林業の担い手確保や県産材の需要拡大などによる持続可能な森林経営、林業の成長産業化への取組みを記載しており、今後とも農林業の自立に向けた施策を充実してまいりたい。
<b>【展開目標3】 環日本海・アジア新時代に向けた陸・海・空の交通基盤等の強化</b>				
18	富山①	活力19	この10年先を見計らって、トンネルを造っていただきたい。このことが富山湾を活かす大きなものになり、富山県の発展のポイントになると思う。	活力19の【主な施策】の「2 地域の活力を育む幹線道路や身近な生活道路の整備」において、「北アルプス横断道路構想」を掲げている。今後とも本構想について、中長期的な視点に立った課題整理及び関係者等との連携・協力をして、息長く取り組んでまいりたい。
19	富山①	活力19	21世紀事業として、長野県、富山県、能登を結ぶ道路の建設が必要。	長野県と富山県を結ぶ道路としては、活力19の【主な施策】の「2 地域の活力を育む幹線道路や身近な生活道路の整備」において、「北アルプス横断道路構想」を掲げている。今後とも本構想について、中長期的な視点に立った課題整理及び関係者等との連携・協力をして、息長く取り組んでまいりたい。 富山県と能登を結ぶ道路としては、【主な施策】の「1 高速道路ネットワーク等の整備と活用」において、「能越自動車道」を掲げている。能越自動車道については、石川県内に未整備区間が残っているため、まずは早期全線開通に向け、取り組んでまいりたい。
<b>【展開目標4】 観光振興と魅力あるまちづくり</b>				
20	富山①	活力23	「海のあるスイス」はなかなかいいキャッチフレーズだと思うが、立山から富山湾までの4000mの高低差をどのように外から来る人にアピールするか、見ていただくかという点に注目して考えることも大事ではないか。	活力23の【取組みの基本方向】において、的確なマーケティングに基づき、ターゲットに応じた媒体選定による「海のあるスイス」のブランドイメージの魅力発信を推進する旨を記載している。これまでも、訪日外国人向けリーフレットの表紙に立山連峰を望む富山湾の写真を活用するなどしており、今後も、立山から富山湾までの4000mの高低差のPRなど「海のあるスイス」イメージの効果的な情報発信に努めてまいりたい。
21	富山①	活力23	立山周辺には称名滝や立山博物館、雄山神社など観光拠点として非常に優れたものがたくさんあるが、立山黒部ルートを優先して、なかなか行ってもらえない。旅行ルートの中にそういうものを組み入れてもらう努力が必要であり、有機的に回遊できるようなルートづくりや旅行会社への働き掛けも非常に大事なことでないか。	活力23の【主な施策】の「4 戦略的なプロモーション」において、「立山黒部などのブランド価値を活かしたプロモーション」について記載するとともに、「地域別の特性と取組み」の「<取組みの方向>活力とやまにおいても、「滞在型・体験型観光の推進(立山黒部の滞在プログラムの充実等)」について記載している。今後とも体験型・滞在型観光地に向けて、立山黒部アルペンルートだけでなく、周辺の観光地へも周遊を促すよう、交通事業者、大手旅行会社、近隣自治体等と連携し、商品造成やプロモーションを行ってまいりたい。
22	富山①	活力23	立山駅周辺にパーキング場が少なく、駅での待ち時間が2～3時間になることが往々にしてあることが、旅行者の不満度を高めている。パーキング場の整備やマイクロバス、ワゴンタクシーを整備して、周辺の観光拠点を余すところなく回ってもらい、立山をもっと皆さんに満足していただけるような形に持っていければよい。	活力23の【主な施策】の「3 富山らしい魅力の創出」において、「世界水準の観光資源『世界遺産五箇山』『立山黒部』等における観光の質を高める取組みの継続的な推進」を記載している。立山駅での待ち時間に対しては、事業者や県内市町村と連携した観光客向けのイベントの開催をはじめ、称名滝や立山カルデラ砂防博物館、立山博物館への誘導やシャトルバスの運行なども行われており、今後も、これらの継続的な実施等について関係者に働きかけてまいりたい。

	委員会	該当政策	委員意見	対応状況
23	富山①	活力27	各地独自のお祭り行事や獅子舞といったものも人を呼べる立派な観光資源として使えるのではないかと。	活力27の【主な施策】の「3 スポーツツーリズム、美術館・博物館めぐり、教育旅行などの促進」において、「歴史ある曳山行事、民謡、祭りなどを堪能できる企画など、歴史・文化の観光資源としての活用促進」を記載するとともに、「地域別の特性と取組み」の＜取組みの方向＞活力とやまにおいても、「観光の振興（越中おわら風の盆などの伝統芸能等の活用等）」について記載している。現在、ユネスコ無形文化遺産に登録された「山・鉾・屋台行事」を活用した誘客促進等に取り組んでおり、今後とも、獅子舞も含めた地域の魅力あるお祭り行事を活かした誘客を促進してまいりたい。
24	富山①	活力26	引き続きユニークベニューの積極的な開放をお願いしたい。また、産業観光のサイトとユニークベニューが一元化されたサイトが有縁的に結び付くと、有力で強固なMICE誘致ツールになると思う。	活力26の【取組みの基本方向】において、「ユニークベニューの利用促進」を記載するとともに、【主な施策】の「3 国際会議や大規模コンベンションの誘致」において、「都会にはない観光資源をエクスカージョンコースとして提案」する旨を記載している。今後、ウェブサイトの一層の充実に努めてまいりたい。
25	富山①	活力26	テクノホールは今回の増床によりいい施設になったと思うが、全国でも各県がコンベンションと展示会場を組み合わせた施設をオープンしようとしており、ライバルたちは総合的に売り込んできている。コンベンションや展示という分野を超えて誘致を進めるためにも、MICEという横断的な誘致戦略も検討いただきたい。	活力26の【取組みの基本方向】と【主な施策】の「3 国際会議や大規模コンベンションの誘致」において、国際会議や大規模コンベンションのさらなる誘致に向けた取り組みを記載している。個別の具体的なMICE誘致活動については、引き続き、推進してまいりたい。
26	富山①	活力23	富山県内に観光客の方が一年中いらっしゃる状況をつくり出すことが、それに携わる企業の人たちの活力になってくと思う。年間を通じてでなければ、産業としては機能しないと思うので、ぜひ通年観光による観光産業の育成について検討をお願いしたい。	活力23の【主な施策】の「3 富山らしい魅力の創出」において、「冬季の魅力創出や屋内型施設等を活用した通年観光の促進」を記載している。現在、通年観光促進のため、食の魅力発信や産業観光の振興などに取り組んでおり、今後とも、官民一体となって、通年観光による観光産業の育成について取り組んでまいりたい。
27	富山①	活力28 未来14	採用面接に来た富山県内の学生の半数以上が立山山頂へ行ったことがない。また、アルペンルートだけでなく、黒部峡谷の樺平にも、ほとんどの人が行ったことがない。県民のおもてなしの中には、県民が県内、特に富山地域の観光資源を知ること、まず己が知り、情報発信することが大事ではないか。	活力28の【主な施策】の「3 おもてなしの心の醸成」において、「地域の歴史・風土を理解するための、郷土史学習などのふるさと教育の推進」を記載している。また、未来14及び「地域別の特性と取組み」の＜取組みの方向＞未来とやまにおいて、「地域におけるふるさとの誇りと愛着を育むふるさと学習の振興」について記載している。 県民が県内や富山地域の観光地に訪れ、その良さについて再認識いただくとともに、情報発信につながるよう努めてまいりたい。

## ＜未来分野に関するご意見＞

### 【展開目標1】結婚・出産・子育ての願いがかなう環境づくり

28	富山①	未来1	ものづくりに携わる若手社員がたぐさんいるが、その若い人たちになかなか結婚のチャンスがなく、相手が見つからない。県のマリッジサポートセンターを利用する側の若い人たちの意見を聞いて、もっと利用しやすいものに精査していくことが必要ではないか。	未来1の【主な施策】の「1 結婚を希望する男女のサポートの充実及び気運の醸成」において、「とやまマリッジサポートセンターによる出会いの場の提供」を記載している。 ご意見の趣旨を踏まえ、利用者の意見を聞く等により、マリッジサポートセンターがより利用しやすいものとなるよう努めてまいりたい。
29	富山①	未来2	働きやすい環境づくりを進めるため、富山市で取り組んでいるお迎え型体調不良時の保育事業のような便利な制度について、横のつながりでもっと連携して、子育て世代をサポートすることが必要。	未来2の【主な施策】の「1 多様な保育サービスや放課後児童クラブの拡充」において、「病児・病後児保育の体制整備や運営支援、従事する看護師や保育士の専門性の向上を図る研修を実施」を記載している。仕事と子育ての両立を支援するためには、病児・病後児保育の充実も重要な課題のひとつであることから、今後とも国の補助制度を活用し、運営費や施設整備等を支援してまいりたい。
30	富山①	未来4	子どもが小さいときの予防接種やワクチンなどの実費もかなり高い金額だと聞いているので、県として、若い子育て世代の負担を軽減するような施策もぜひ行っていただきたい。	未来4の【主な施策】の「2 出産、保健、医療等に要する費用負担の緩和」において、「子育て応援券による保育・保健サービス利用の充実」を記載している。子育て応援券は、任意の予防接種も対象としており、今後とも子育て家庭が使いやすい制度となるよう検討してまいりたい。

	委員会	該当政策	委員意見	対応状況
31	富山①	未来1	もっと企業や自治体などいろいろな団体が大きく手を結んで、大きな合コンの仕掛けをしたり、研修会や異業種交流会、あるいは大きなイベントに若い男女をたくさん招いて、出会いの機会を継続的に広げていくような方法など、行政がもっと出しゃばって取り組むことも必要ではないか。	未来1の【主な施策】の「1 結婚を希望する男女のサポートの充実及び気運の醸成」において、「結婚支援体制の強化」及び「出会いイベントなどの男女の出会いをサポートする活動への支援」を記載している。 ご意見の趣旨を踏まえ、市町村、団体等と連携を深め、継続的な出会いの機会に努めてまいりたい。
32	富山①	未来2	子育て世代を地域全体で温かく見守り支える支援策の充実是不可欠。また、お母さん同士のつながりから生まれる安心感・連帯感、子育て世代自らが助け合う活動から生まれる安心感も非常に大切。サービスを利用するだけでなく、自らのつながりから生まれる安心感をえられる活動も、これからは大切になってくるのではないか。	未来2の【主な施策】に「2 子育て情報の提供や相談機能の充実」「3 地域住民による子育て支援の促進」を記載している。今後もファミリー・サポート・センターやとよまっ子さんさん広場等の運営支援を通じ、地域全体で子育て家庭を支える体制整備を推進してまいりたい。また、地域子育て支援センターの運営や子育てサークルの活動支援などを通じ、子育て中の親子が気軽に集う場の提供と相互交流を促進してまいりたい。
<b>【展開目標3】文化・スポーツの振興と多彩な県民活動の推進</b>				
33	富山①	未来15	富山市では、中心部の美術館などで滞在して、美術館巡りや買い物もしていただくなど、長く中心市街地に滞留していただくという取り組みを行っている。富山県美術館ともそういう意味での連携を今後図っていききたいと思っているので、そうした美術館同士の連携などについてもよろしく願いたい。	未来15の【主な施策】の「3 美術館を中心とした県民が芸術活動と出会い、親しむ場の創出」において、「県内外の美術館と連携した取組みの推進」を記載している。 富山市内には、特色ある美術館や博物館などが集積しており、これまでも官民が協力して、芸術文化施設等の連携を推進し、芸術文化の振興及び富山市中心部の賑わい創出に努めているところであり、引き続き、連携した取組みを推進してまいりたい。
34	富山①	未来17	富山県美術館の入館者増に関して、①富山駅の新幹線改札を出てすぐ目立つ所でのポスターの掲示や地図(外国語付き)の設置、②美術館を観光ルートに入れてもらうための旅行会社への働きかけ、③美術館の男女の出会いの場としての活用を検討すべき。	未来17の【主な施策】の「3 本県文化の魅力を国内外に発信」において、富山県美術館の魅力を国内外への発信について記載している。 富山駅構内のデジタルサイネージで富山県美術館の案内を継続的に掲載しているほか、駅北口や南口に案内マップを掲示する等している。今後とも、県内外から多くの方に富山県美術館にお越しいただけるよう、観光とも連携を図りながら、取り組んでまいりたい。(その他個別の取組みについては、今後検討してまいりたい。)
<b>【展開目標4】ふるさとの魅力を活かした地域づくり</b>				
35	富山①	未来24	県外から来る人たちが何の魅力で富山に来るかという、他にない特化した魅力を富山県に求めているということであれば、総花的にいろいろな分野で発信してもなかなかうまくいかない。従って、各分野の中で、特化した形ものを伸ばしていき、その他の部分を追随、連携して、知ってもらうことが非常に大事ではないか。	未来24の【取組みの基本方向】において、本県の特徴である、暮らしや仕事、自然環境などの発信を強化し、「くらしたい国、富山」のイメージの定着を図ることとしている。 また、他にはない特化した魅力など具体的な内容については、インターネット等によるPRや、移住希望者との相談業務の中で紹介することとしたい。
<b>【その他未来分野全般に関する意見】</b>				
36	富山①	未来全般	今後10年で考えると、外国籍の子ども、帰国子女の家庭などますます多様な家族が増えてくるほか、支援を要する児童生徒も増えるので、そういう人たちが学びを諦めないような取組み、また、多様な学び方ができるような取組みが必要。	未来23【主な施策】の「1 多文化共生の地域づくり」において関連施策を記載している。 県教育委員会では、市町村教育委員会及び小中学校の教員が適切な支援が行えるように、外国人児童生徒の受入れの手続き、適応指導・学習指導など、外国人児童生徒教育に関わる課題について、毎年テーマを変えて「外国人児童生徒教育の手引」を作成している。さらに、教員を対象とした「外国人児童生徒教育実践講座」を年2回実施し、教員の指導力向上に努めているところである。 また、県立高等学校入学者選抜では、志願時において入国後6年以内の外国籍を有する者が申請すれば、学力検査の漢字にふりがなを付す申請後外国人特別措置を適用している。さらに、海外における在学期間が継続して2年以上の者で、志願時において帰国後3年以内の者が申請すれば、帰国生徒として扱い、面接を実施し、その結果及び海外での経験等を十分考慮して選抜している。なお、桜井高等学校普通科には5名の帰国生徒枠を設けている。 今後とも、多様な学び方ができるよう教育環境の整備に取り組んでまいりたい。

	委員会	該当政策	委員意見	対応状況
37	富山①	未来全般	整った子育ての施策や教育環境について、実は知らない人が多いので、十分活用できるような分かりやすい情報提供をお願いしたい。	未来10の【主な施策】の2において記載している「放課後子ども教室」については、現在、学校をとおして募集チラシ等が配付されている。今後とも市町村と連携して情報提供に努めてまいりたい。
<b>&lt;安心分野に関するご意見&gt;</b>				
<b>【展開目標1】いのちを守る医療の充実と健康寿命日本一</b>				
38	富山①	安心1	産科の先生がいないことは国家的な問題で、各地区で安心して産める富山県にしなければならない。市も県も町も一体になって、これに取り組まなければならない。厚生労働省そのものが考えてもらいたいということで働き掛けているが、これからの大きな課題として捉える必要がある。	安心1の【主な施策】にある「医師不足が顕著な産科や、小児科、麻酔科、総合医、救急部門などの人材の確保」の中で産科医確保に取り組むとともに、【取組みの基本方向】に示したとおり、県医師会や各医療機関、大学などと連携・協力し、総合的な医師確保対策に取り組むこととしている。 また、県民が安心して出産できるように、県内の4医療圏ごとに産科・小児科を備えた地域周産期医療センターを設置し、さらに、リスクの高い妊婦に対する高度な医療及び新生児医療等を行う総合周産期母子医療センターを県立中央病院に設置するなど、周産期医療体制を整備している。
<b>【展開目標3】環日本海地域をリードする「環境・エネルギー先端県」づくり</b>				
39	富山①	安心16 未来27	市町村だけの取組みでは限界があるのは、カラス、サル、シカ、クマ対策。県ではそのためのハード対策や規制緩和にこれまでも取り組んできているが、引き続きぜひお願いしたい。	安心16の【主な施策】の5及び「地域別の特性と取組み」の<取組みの方向>安心とやまにおいて、「野生鳥獣の管理の強化」について記載しており、イノシシやニホンジカの捕獲等の強化と野生鳥獣の保護管理を担う人材や専門的な集団の育成・確保などの施策を推進することで、野生鳥獣による被害防止対策に取り組んでまいりたい。 また、未来27の【取組みの基本方向】において、「イノシシ等野生鳥獣による農作物被害防止に向けた総合的な取組みの推進」を記載するとともに、「地域別の特性と取組み」の<取組みの方向>未来とやまにおいても、「鳥獣被害発生防止対策への支援」を記載しており、農地への侵入防止対策など、広域的・効果的な鳥獣被害防止対策の推進に一層取り組んでまいりたい。
<b>【展開目標4】災害に強く、「日本一安全・安心な県」づくり</b>				
40	富山①	安心25 活力17	遠くない将来、自動運転、無人タクシーの時代が来る。地理的に恵まれている富山県では、地元中山間地の高齢者の移動手段、あるいは駅を降りた後の移動手段が非常に変わってくることになるので、国のレベルでの交通法規の問題などもあるが、それを中長期的に見据えて考えていく必要がある。	安心25の【主な施策】の1において、「自動運転技術を活用した地域公共交通サービスの導入の推進」について記載している。 今後とも、地域公共交通ネットワークの確保・充実に努めてまいりたい。
41	富山①	安心21	災害に強い県づくりが必要。	安心21において、治山、治水、土砂災害対策、浸水対策、津波・高波・海岸侵食対策、公共施設の維持管理分野の施策を掲げるとともに、「地域別の特性と取組み」の<取組みの方向>安心とやまにおいて、「河川改修整備」、「砂防・地すべり・急傾斜地崩壊対策施設の整備」、「海岸保全施設の整備」、「治山施設と保安林の整備」等について記載している。 こうした様々な施策を推進することで、今まで以上に災害に強い県づくりに取り組んでまいりたい。